

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070600962
法人名	株式会社 エルダーサービス
事業所名	グループホーム高見
所在地	福岡県北九州市八幡東区高見5丁目2-1
自己評価作成日	平成24年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣の保育園や視覚支援学校の生徒との交流があり、又高見中学校のグラウンドに隣接している為子供たちとのふれあいや、運動の様子などを楽しんでいただいている。公園などの環境にも恵まれ、木々などの季節感も大いに味わっていただける。職員は一人一人を尊重し、地域の中で「自分らしく安心して笑顔で」生活を送って頂けるよう、「目配り、気配り、思いやり」の精神を忘れずに入居者、ご家族に接している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成25年1月11日	評価結果確定日	平成25年3月25日

中学校や県立視覚特別支援学校に隣接し、自然の多く残る、閑静な場所に位置している。周囲には桜の名所でもある中央公園があり、地域の方が桜の花の見ごろを教えてください、介護に関する相談に訪れている。管理者、職員は、理念や方針とする「心から満足できる介護サービスの提供」や「自分らしさ」の実現に向けて、「気づきと思いやり」を念頭に置き、支援に取り組んでいる。開設して8年目を迎え、少しずつ重度化に移行する中で、看取りも経験し、ホームでの暮らしの継続に向けた、出来る限りの支援を、家族や医療機関との連携を図りながら行っている。合同研修やノウハウの共有等にて、法人内の4ヶ所のグループホームの連携も活用しながら、サービスの向上に取り組んでおり、今後も、個別支援の追求や地域拠点としての活動展開が大いに期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常的な取り組みとしても、サービス提供場面での声かけ、態度など日々確認し職員間での毎朝のミーティングや定例会の機会にも理念を確認し日々の業務にのぞんでいる。	地域密着型サービスとしての理念や運営方針は、目に付きやすい場所に掲示されている。毎朝の申し送りや定例会において確認を行い、職員への意識付けを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩などでも隣近所の人と挨拶や会話など積極的に行うようにしている。又町内会の自治会にも参加させて頂き回覧板などの受け渡し、町内の行事等の情報も知るようにしている。近所の保育園、盲学校の来園も毎年の行事になっている。	町内会に加入している。開設して8年目を迎え、交流のある保育園から小学生となり、その子供達が気軽に訪れることもある。また、近所の方より桜の開花情報を教えてもらったり、介護の関する相談にもついている。近隣の保育園や北九州視覚特別支援学校との交流も継続されており、園児の手書きの行事案内も届いている。ホーム前の外灯を夜通し灯すことにより、近所の方にも喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者を抱える近隣の方からの相談にのっている。電話での相談や、見学时にも出来ることがあれば、敏速に対応するよう心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で得た情報を検討し、日々の業務に活かせるよう努力している。	定期開催されている運営推進会議には、民生委員や婦人会からの出席も得ている。事業所からの運営報告を行い、意見や助言をサービス向上に活かせるよう取り組んでいる。地域情報の収集の機会としても活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	北九州市の担当課とは、メールでの情報をいつももらっている。又質問などがある場合は電話にて話を聞くようにしている。運営推進会議にも参加して頂き意見交換を行い協力関係を築いている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出席を得ており、情報共有を図り、アドバイスを頂いている。また、八幡東区の地域密着型事業所交流会等の活動を通じて、交流を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会での研修、セミナーなど受講し、職員が身体拘束について理解しており、玄関も日中は施錠せず、オープンにしている。	法人内のグループホームが合同で研修を実施しており、伝達を行い、身体拘束をしないケアについて、職員の共有認識を図っている。日中は施錠されていない。居室の環境整備等にも配慮が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内、外部研修を行い朝のミーティングや定例会などで話し合いを行っている。又緊急やむを得ない場合ご家族と話し合い、身体拘束同意書をもらうようになっている。		

福岡県 グループホーム 高見

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業に関するセミナーに参加し、職員間で学習し、必要な場合には活用できるようにしている。以前制度活用の入居者がおられ支援していた。	現状として、成年後見制度や日常生活自立支援事業を活用している方はいないが、資料を整備し、必要時には説明できるようにしている。運営推進会議等を活用しながら、より積極的な情報提供も期待されます。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居が決定した際は、入居契約書や重要事項説明書をもとに、当ホームでのサービスについて十分説明している。又解約した際もご家族の疑問点等あれば説明を行う。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望箱を玄関に設置している。又月一度入居者の様子を手紙で知らせ、電話で話す機会があるときも要望など聞くようにしている。要望がある時は積極的に支援出来るようにしている。	年1回、家族会を開催しており、参加率も高い。また、地域の方が参加する機会もあり、交流の機会となっている。家族が意見を言い難いことを理解し、関係性を重視しながら、意見や要望の収集に努めている。家族アンケートの実施等、より積極的な意見収集の機会の確保も期待されます。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に、管理者が職員との話し合い等行っており、意見を聞く機会をもっている。意見はできるだけ反映できるようにしている。	毎月、定例会を開催している。また、個人面談の機会を設け、職員意見の収集や相談にのっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	様々な状況に応じて勤務の調整を行居、柔軟な対応を心がけている。個人面接など行い職員一人ひとり向上心を持って働ける環境の設備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は、性別、年齢などから排除することはない。管理者は定期的にヒアリングを行い職員の向上心や業務に対する意見や提案を又悩みなどと聞く様に努め精神的フォローにも心がけている。職員がいきいきと働けるよう研修などのサポートも行っている。	職員の採用にあたっては、年齢や性別による排除は行っていない。法人内のグループホーム合同で研修を実施したり、資格手当の支給等、スキルアップやモチベーションの確保に配慮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修や内部研修にて人権に対する意識を高めている。又日々の暮らしの中でも入居者の人権に配慮したケアを行う様努めている。	これまでには、行政の主催する研修に参加した実績も多い。法人合同の研修や、ホームでの定例会における伝達や話し合いを通じて、様々な視点から人権教育、啓発に努めている。	

福岡県 グループホーム 高見

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内4事業所(グループホーム)合同の研修計画を立てている。合同研修は2ヶ月に1度行っており各事業所ごとの定例会でも研修会を行っている。又日々の業務の中でも意見や質問をしやすい学べるような職場環境に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内4事業所のグループホームと定期的開催している研修会や相互の訪問を通して、交流や情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談に伺い、ゆっくりとお話を聞き、困っている事、不安な事、求めている事などに対してご本人が入居する前までに、出来る限り環境を整えるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族と面談を行いご家族との関わり合いかたや、ご家族が困っている事、不安な事要望など詳しく聞き、ご本人が安心して日々生活できる事をお伝えし、入居後もう随時相談等受け付けることをお伝えしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人とご家族と話し合い、最も必要としている支援、サービスを考慮した対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で共に支えあい、普段の何気ない会話を大切にし、さりげなく支援する事により、お互いが「ありがとう」と伝える関係が築かれている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時に入居者の日々の生活等をお伝えし、行事の参加、病院受診の付き添い、外出等職員と共に行う事により一方の立場におかずに一緒に支えていく関係が築かれている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人がこれまで大切にしてきた馴染みの方と交流・馴染みに場所など、関係が途切れないようご家族と話し合い支援を行っている。	北九州市民にとっては馴染みの場所である、魚町銀天街の様子を訪ねたり、職歴からくる馴染みの場所を訪ねている。自宅の近所の方が訪ねてくれることもあり、歓迎している。	

福岡県 グループホーム 高見

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の趣味等を把握し皆様で楽しめるようなレクリエーション等お行い、利用者同士が関わり合えるよう支援している。又職員が間に入り会話を盛り上げ、日々笑顔で過ごせるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者のご家族へ管理者より連絡をとり現在の様子を伺ったり、ご家族の方からの相談には、ニーズに応じた関係機関を紹介するなどご本人ご家族が満足したサービスが提供できるよう支援に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや意志を職員で共有する為に「ミーティングシート」により、情報の共有化を図っている。入居者との会話を大切に、会話の中から本人本位の思いや意向を聴き取りアセスメントを行い本人のライフスタイルなどを尊重した、ケアやサービスの提供を行っている。	日々の会話や表情の変化、家族からの情報を職員間で共有しながら、カンファレンス等を通じて、思いや意向の把握に努めている。レクリエーションの中で回想を取り入れたり、昔話や懐かしい唄を通じて、思い出話を聴いている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人との日々の会話やご家族からの情報により生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、一人ひとりが「自分らしく」すごして頂けるよう、心身の状態を理解し日々の変化など職員間での伝達を周知し、現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人やご家族から話を聞き、関係者とカンファレンスを行い介護支援専門員が介護計画を作成している。	本人、家族の意向や、医師の意見を踏まえ、介護計画を作成している。毎月のモニタリングやカンファレンスを通じて、現状の確認や見直しの必要性について検討を行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、個別に記録しており日々の様子、心身の状態、ケアの実践等が詳細に記載されている。また気づきや工夫などは朝・夕の申し送りに話し合いミーティングシートでの職員間での情報の共有に努め介護計画の見直しに活かしている。		

福岡県 グループホーム 高見

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内4事業所(グループホーム)での交流がありふれあいの機会をつくっている。又法人内にはデイサービス・訪問介護・介護支援センターがあり、いつでも相談にのれるようになっている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に一度の運営推進会議、ボランティアの来園生け花教室、近隣保育園、学校との交流などを行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特に希望がない方には、ご本人、ご家族の同意を得て協力医に1ヶ月2回の往診または受診を行っている。希望があれば訪問歯科の受診を受けている。状態変化や健康状態に問題が生じた場合は早急に受診行い対応したい。受診結果は随時家族へ報告をとっている。	入居契約時に、かかりつけ医について確認している。協力医による定期の往診体制があり、希望があれば訪問歯科による往診も可能となっている。他科受診については、家族との連携を図っている。健康状態や受診結果については、家族との情報共有に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と常に連携をとり入居者の日々の状態を相談し日常の健康管理を支援している。又看護計画を把握し入居者の状態に変化があったときには直ぐに報告し、指示を仰ぐようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には頻繁にお見舞いに伺い、入居者が安心して過ごせるよう支援している。又病院の医師や看護師ソーシャルワーカーと連携し状況把握に努める。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が重度化してきた場合かかりつけ医、ご家族、管理者と話し合い状況を把握し、事業所のできる事、出来ない事を見極め職員全員で支援するように取り組んでいる。	入居契約時に、重度化した場合における対応に関わる指針や、看取りに関する指針を示し、意向確認、及び同意を得ている。これまでは看取りも経験しており、状況の変化に伴い、その都度、意向の確認や医師との話し合いを重ね、方針の共有に努めている。家族の宿泊にも対応している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応について、内部研修や外部研修に参加している。消防署の方から心臓マッサージやAEDの使用方法など教わった。		

福岡県 グループホーム 高見

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練をおこなっており、昼夜を問わずに入居者が安全に避難できるよう訓練を行っている。近隣の方へ災害時の協力をお願いしている。緊急通報装置・スプリンクラーの設置もある。	年2回、消防署や防災業者との連携を図りながら、昼夜を想定した避難訓練を実施しており、入居者も参加している。緊急通報装置の連絡先として、同法人の近隣施設や民生委員、婦人会の方に協力をお願いしている。シーツを使い、避難方法についてのシミュレーションも実施されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いにも気を付け人生の先輩でもある入居者に対して常に敬意の気持ちを忘れずにプライバシーに配慮した言葉かけや笑顔で優しく対応するなど心がけている。	法人内4事業所の合同研修計画の中にも位置付け、事業所にて伝達を行い、職員の意識を高めている。排泄ケアや入浴時の対応については特に留意し、プライドや羞恥心への配慮に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自己決定、自己選択が行えるよう、声掛けし自分の意志が表現できるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切にし、その日の天候や健康状態に合わせ、入居者の希望を尊重し日々穏やかに、楽しく過ごして頂けるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一回訪問美容院が来訪し、カットを行っている。日々の生活の中でも身だしなみは気を付けている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを献立に活かし彩や盛り付けを工夫し入居者と職員が楽しく会話をしながら食事をしている。外食を楽しんで頂いたり、職員手作りの朝食なども楽しんで頂いている。	調理担当職員が配置され、嗜好や栄養バランス等への配慮を行いながら、昼食、夕食を調理している。時には、大型ショッピングセンターのフードコートで外食を楽しんでいる。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	検食簿や食事チェック表に一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量を記入して、職員全員が把握している。摂取量が足りない入居者への強化にも努めている。		

福岡県 グループホーム 高見

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。又必要な方は訪問歯科を受けている。医師よりの助言や指導もある。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄シートへ記入し、一人ひとりのパターンを職員全員が把握している。又、時間毎のトイレ誘導など行い気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄シートを用い、個別の間隔やパターンの把握に努めている。少しずつ重度化が進む中で、カンファレンス等にて検討を行い、トイレでの排泄が行えるよう、職員2名での対応も含め支援を行っている。夜間は個別の状況を検討しながら、支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に1日の水分摂取量などを記入し、水分強化やその方の好みに合わせた飲み物など工夫している。又、適度な運動を心がけている。食事の摂取量も留意している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には一日おきに入浴しているが、清潔が必要な方は毎日入浴施行行っている。本人の希望を聞き入浴日や時間など柔軟な対応も行っている。	一日おきの入浴スケジュールは設定しているが、毎日入浴準備を行っており、希望や状況、生活習慣にあわせて、柔軟に対応している。入浴補助リフトが設置されている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく休息したり眠れるよう室温調整や換気等に配慮している。又日々適度な運動など心がけている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルに薬の説明書をファイルし、薬の副作用についても定例会で学んでおり理解している。又処方が変わった場合はミーティングシートに記載し症状の変化等の確認に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中では、食器拭きや洗濯たたみなど無理のないように参加されている。趣味の手芸など入居者の生活歴を活かした支援を行っている。		

福岡県 グループホーム 高見

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴・ドライブに出かけている。季節ごとのイベントへも出かける。	少しずつ重度化へと移行している中ではあるが、玄関先のベンチ等での日光浴を行ったり、車椅子で近隣の福祉公園や中央公園に出かけている。馴染みのある場所として、魚町銀天街を見にドライブに出かける等の支援も行われている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はご自分でお金を管理されている方がおられず、買い物など出かけるときは、こちらからお金を渡し買い物をして頂くようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けられるさいは、ホームの電話を使用されている。使用時は居室で使用する等プライバシーに配慮した支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると開放的なリビング空間があり、対面式キッチンになっており落ち着いた雰囲気のリビングになっている。リビングより中学校のグラウンドが見え子供たちの様子が伺える。緑も十分にみる事ができ入居者が居心地よく過ごせるようになっている。	リビングの大きな窓からは、隣接する中学校のグラウンドの様子が見え、時には元気な声が響く。リビングのソファや玄関のベンチ等、その時々に応じた寛ぎの場所がある。活け花教室の作品や、保育園児の絵が飾られている。リビングには床暖房が設置されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファでゆっくりと過ごされたり、気の合った者同士で、居室で談笑されている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人やご家族と相談しご本人の使い慣れた者を使用して頂き、好みの物を飾られたりし居心地がいいように工夫している。	自宅より、筆筒や仏壇が持ち込まれている。個別の習慣や状況に応じて、生活環境作りへの配慮も見られる。手作りの毛糸の帽子やバックが飾られ、これまでの暮らしがうかがえる居室もある。床暖房が設置されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ出来ることはして頂き自立した生活が送れるように、必要な場所には手すりをつけ物の配置に気を配り安全に努めている。		